

日本モデル環境対策技術等の国際展開について

1. 背景と目的

アジア諸国で深刻化している環境問題に対処し、持続可能な経済発展を実現するため、我が国のこれまでの公害克服の経験や技術を活かした国際協力の更なる展開が求められている。

このため、環境省では昨年 6 月に「クリーンアジア・イニシアティブ」を提唱したところであり、その中で、我が国の公害克服の経験をもとに、環境対策、測定技術、規制体系、人材などをパッケージにして展開し、低炭素型・低公害型社会へ誘導するための施策等を進めることとしている。

なお、この考え方は、本年 4 月に斉藤環境大臣が発表した「緑の経済と社会の変革」にも盛り込まれており、我が国の環境汚染対策技術等や環境管理に係る制度・手法の導入・普及を戦略的に進め、人材育成にも取り組むこと等により、アジア諸国において、環境立国・日本としてのリーダーシップの発揮、プレゼンスの向上を図り、持続可能な経済発展を実現することにより、我が国の環境技術の優位性の確保、環境ビジネスの活性化ひいては日本経済の発展、雇用の創出にも資することとしている。

これらを踏まえ、「日本モデル環境対策技術等の国際展開」事業を今年度から新規に開始する。本事業においては、専門家による検討会を設置し、制度や人材とパッケージで我が国の環境汚染対策や環境測定の技術を戦略的・体系的に展開させていくための方策を検討するとともに、アジアの幾つかの地域において試行的に事業を実施する。

2. 平成 21 年度の事業概要

「日本モデル環境対策技術等の国際展開」

I. 日本モデル環境対策技術等国際展開検討会

- ①アジア諸国における環境汚染問題の現状、環境等に関する法令・計画やその執行等の現状及び環境対策技術の導入の現状及び問題点等に関する情報の把握・集積、法令・計画やその執行等の改善及び導入されるべき技術の改善に関するニーズ把握・集積。(個別事業とも連携して実施)
- ②我が国の経験を生かし、コベネフィットの観点を含め、アジア諸国の環境汚染問題等の現状等に応じた環境対策技術、環境管理に係る制度や手法(システム)の導入・普及、これらの技術やシステムの実効性を高め

るための能力向上が図られるような人材育成をパッケージで進めるための方策の検討。

③我が国の環境対策技術をベースとして、アジア諸国のニーズに応じた改良を進めつつ、我が国発の環境対策技術を戦略的に普及・展開するとともに、アジア諸国と協調した環境ラベリングの使用等により、将来的に「アジア標準」化を推進するための方策の検討。

④環境対策技術、システムの導入・普及及び人材育成に係る協力活動についての報告。

環境対策技術の戦略的国際展開方策検討ワーキンググループ

・対象国の環境汚染問題等の現状、法令、技術ニーズ等に応じた「環境対策技術」・「環境保全の規制体系」・「人材」のパッケージのうち、特に環境技術に関する戦略的な国際展開方策について、対象国の状況に応じた具体的な方策を検討するとともに、中長期的に各国と協調した環境ラベリング等の使用による環境技術の「アジア標準」化を推進するための方策についての検討。

Ⅱ. 中国における個別プロジェクト

①**日中コベネフィット・モデル事業における攀枝花市（四川省）を対象としたキャパシティ・ビルディング事業**

・中国（攀枝花市）及び日本における研修

（環境汚染物質削減・コベネフィット技術とその評価方法、環境管理手法等）

・攀枝花市におけるセミナー

（環境汚染物質削減・コベネフィットに関する講演・討論及び関連する技術情報のパネル等による展示）

②**窒素酸化物の大気総量削減に係る日中共同研究**

・NO_xの大気総量削減に係るワークショップ

（固定発生源及び移動発生源からのNO_x排出削減技術・対策、NO_x排出削減のための環境管理手法）

③**中国での環境対策技術のニーズ把握・適用可能な技術リストの作成・提供**

Ⅲ. ベトナムにおける個別プロジェクト

①日越合同検討会

- ・ 両国の協力内容の検討・報告・評価及び施策への反映方法の検討
- ・ 政策研究に基づく環境対策技術、規制方法、人材に関する情報交換

②日越共同政策研究

- ・ 日本及び諸外国における環境対策技術・制度・人材に関する情報収集及び比較、今後のベトナムへの適用についての検討
- ・ ベトナムの環境規制に関する現状と課題の整理

③環境汚染対策及びその技術に関するワークショップ

- ・ 環境汚染対策（とりわけ水質汚染対策）に関する講演・討論
- ・ 日本の環境対策技術に関する講演・パネル展示

④ベトナムでの環境対策技術のニーズ把握・適用可能技術リスト作成と提供